

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	英語コミュニケーション	授業形態	講義	単位数	2単位
担当教員	堀切 修宏	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	小学校での外国語活動の教育、中学、高等専門学校でのCLILを用いた教育実践、学習塾の運営				
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園に外国人の園児が入園してくることもあり、保育現場で英語を使う機会も増えている。本科目では英語表現の基礎となる文法・構文の復習を行うとともに、保育の現場で必要な英語表現を運用できる力を身につけることを目標とする。				
授業概要	英文法の基礎を学習し、英文読解のルールを用いて英文を読んでいく。また保育の現場での様々な生活場面を題材にした英文や英語表現の学習を通して、保育者と子どもや保護者とのコミュニケーションに使われる英語表現や連絡事項の書き方などを学習する。				
テキスト	「英語コミュニケーション」姫路大学				
授業計画	第1回	英語の文法(動詞、形容詞・副詞)			
	第2回	英語の文法(比較、代名詞、疑問詞)			
	第3回	英語の文法(進行形、完了形、受動態)			
	第4回	英語の基礎構文(5文型)と英文読解のルール			
	第5回	英語の基礎構文(修飾句)			
	第6回	英語の基礎構文(接続詞、仮定法)			
	第7回	入園準備の際に用いる英語表現			
	第8回	登園・降園の際に用いる英語表現			
	第9回	室内遊びの際に用いる英語表現			
	第10回	外遊びの際に用いる英語表現			
	第11回	健康・病気・けがの際に用いる英語表現			
	第12回	運動・お散歩の際に用いる英語表現			
	第13回	食事の際に用いる英語表現			
	第14回	工作・お絵かきの際に用いる英語表現			
	第15回	おたより・行事の際に用いる英語表現			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	教育心理学	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無		×			
実務経験教員の経歴	なし						
授業のねらい (到達目標)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を学ぶことを到達目標及びテーマとする。						
授業概要	教科書、プリントを用い、適宜、グループワーク等の実施も行いながら、教育心理学の基礎を学んでいく。日常生活における身近な例を取り上げながら、教育心理学を学んでいく。						
テキスト	教育心理学(姫路大学)						
授業計画	第1回	教育+C17:M31心理学概論					
	第2回	遺伝と環境					
	第3回	発達段階、発達課題					
	第4回	動機づけ理論					
	第5回	パーソナリティとは					
	第6回	学習評価					
	第7回	カウンセリング理論					
	第8回	発達障がいとは					
	第9回	認知の発達					
	第10回	記憶の発達					
	第11回	学習理論					
	第12回	動機づけ理論の現場での応用					
	第13回	学習指導方法					
	第14回	教育現場における学習評価のあり方					
	第15回	配慮が必要な子どもの支援のあり方					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	特別支援論Ⅱ	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	昭和48年障害児施設入職以降、養護学校義務制前後から、障害児の教育支援活動、就労支援施設でのジョブコーチ等の実践、障害を持つ児童・生徒のライフステージを見通した特別支援教育の在り方を現場の職員集団の中で試行してきた。特別支援教育の源流であるインテグレーションが、インクルージョンという広い川に注ぎ込む今、特別支援教育に関する者が持つべき専門性について、現場経験を基に解説する。						
授業のねらい (到達目標)	1、発達を支える様々なアプローチが説明できる。2、特別支援教育及び保育を支える理念が説明できる。3、合理的な配慮を必要とする子どもの保育において配慮すべき要点を学ぶ。						
授業概要	特別支援論Ⅰでの学習を基に、子どもの発達を支える様々なアプローチ、及び、発達に関して合理的配慮を要する子どもへの具体的支援を学ぶ。また、特別支援教育及び保育の理念と、実際の支援に際して留意すべき環境・人間関係について考える。さらに、グローバル化によって増加した、外国籍者の母国語や貧困による教育的ニーズのある子どもの現状と取り組みについてもふれる。						
テキスト	「特別支援論Ⅱ」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	様々なアプローチ①インリアル・アプローチ					
	第3回	様々なアプローチ②応用行動分析					
	第4回	様々なアプローチ③TEACCHプログラム					
	第5回	様々なアプローチ④感覚統合療法					
	第6回	発達に関して合理的配慮が必要な子どもへの対応					
	第7回	特別支援教育及び保育の理念					
	第8回	個別の教育支援計画					
	第9回	通級による自立支援活動					
	第10回	合理的な配慮を必要とする子どもの保育①個々の発達を促す生活・遊び環境					
	第11回	合理的な配慮を必要とする子どもの保育②子ども同士の関わりと育ち合い					
	第12回	合理的な配慮を必要とする子どもの保育③障害児保育におけるこどもの健康と安全					
	第13回	合理的な配慮を必要とする子どもの保育④職員の連携					
	第14回	外国籍者の子どもへの支援					
	第15回	効果測定					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	特別支援演習	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	昭和48年障害児施設入職以降、養護学校義務制前後から、障害児の教育支援活動、就労支援施設でのジョブコーチ等の実践、障害を持つ児童・生徒のライフステージを見通した特別支援教育の在り方を現場の職員集団の中で試行してきた。特別支援教育の源流であるインテグレーションが、インクルージョンという広い川に注ぎ込む今、特別支援教育に関する者が持つべき専門性について、現場経験を基に解説する。						
授業のねらい (到達目標)	1、発達を支える様々なアプローチが応用できる。2、特別支援教育及び保育を支える理念を実践に生かす姿勢がもてる。3、合理的な配慮を必要とする子どもの保育において配慮すべき点が定められる。						
授業概要	特別支援論Ⅰ・Ⅱの学びの上に、特別な教育的ニーズをもつ子どもたち事例を通して、合理的配慮の在り方を考える。						
テキスト	「実践に生かす障害保育・特別支援教育」 萌文社						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	事例研究事前準備①					
	第3回	事例研究事前準備②					
	第4回	事例研究事前準備③					
	第5回	事例研究①					
	第6回	事例研究②					
	第7回	事例研究③					
	第8回	事例研究④					
	第9回	事例研究⑤					
	第10回	事例研究⑥					
	第11回	中間発表					
	第12回	発表準備①					
	第13回	発表準備②					
	第14回	発表準備③					
	第15回	研究発表					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	教育課程論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	斎藤 真	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	公立小学校教員9年の経験を有するほか、国立大学教員養成課程ならびに大学院小学校教員養成課程におけるティーチングサポートならびにティーチングアシスト経験を有す。						
授業のねらい (到達目標)	学校教育目標達成のための必要不可欠な、教育課程編成の法的な根拠を考察する。また、基本方針を理解し、教育課程編成の意義や課題等を学ぶ。						
授業概要	1. 教育課程の意義と必要性について 2. 小学校の教育課程の違いについて 3. 教育課程と年間指導計画との関連について 4. 年間指導計画等の作成上の留意点について 5. 小学校における評価の意義と考え方について 6. 教育課程の編成と「生きる力」の育成との関連について						
テキスト	教育課程論(姫路大学)						
授業計画	第1回	教育課程の意義					
	第2回	教育課程の変遷①					
	第3回	教育課程の変遷②					
	第4回	教育課程開発(生活科誕生の背景と取り組み)					
	第5回	教育課程開発(生活科誕生の背景と取り組み)					
	第6回	教育課程の編成①					
	第7回	教育課程の編成②					
	第8回	小学校学習指導要領解説 総則編について					
	第9回	教育課程実施上の配慮事項					
	第10回	指導計画の作成演習					
	第11回	指導計画の作成演習					
	第12回	指導計画の作成演習					
	第13回						
	第14回						
	第15回						
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期	
科目名	教育相談	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無		×		
実務経験教員の経歴	なし					
授業のねらい (到達目標)	学校現場で生じる問題を理解し、教育相談の意義、教育相談におけるカウンセリングについて理解を深める。					
授業概要	学校・園の現場では、幼児・児童・生徒がさまざまな課題に直面する。それは、成長の一過程であるが、当事者にとっては大変大きな問題である。そのような状況を踏まえ、学校・園での教育相談のあり方や教育相談を実施する上での課題について学ぶことを目的とする。					
テキスト	教育相談(姫路大学)					
授業計画	第1回	教育相談の概要				
	第2回	カウンセリングの基本と技術				
	第3回	心理アセスメント技法				
	第4回	不登校の理解と対応				
	第5回	いじめの理解と対応				
	第6回	発達障がいの理解				
	第7回	特別な配慮を必要とする子どもの理解と対応				
	第8回	発達段階と発達課題				
	第9回	子どもの精神疾患の理解				
	第10回	児童虐待への対応				
	第11回	保護者の理解と対応				
	第12回	校内連携				
	第13回	他機関との連携				
	第14回	教師のメンタルヘルス				
	第15回	教育相談のあり方				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	保育内容(環境Ⅰ)	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。						
授業のねらい (到達目標)	1. 領域「環境」のねらいと内容を理解する。 2. 子どもを取り巻く様々な環境を理解し、関心を持つ。 3. 保育者の役割を常に考え、保育実践力を身につける。						
授業概要	現在の子どもを取り巻く環境の変化について学びながら、保育に必要な基礎専門知識を得る。 子どもが発育・発達における環境とのかかわりの重要性を学びながら、保育の環境や環境構成のあり方について理解する。						
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 環境						
授業計画	第1回	環境とは何か？ 環境の定義					
	第2回	環境とは何か？ 子どもを取り巻く環境の変化を知る					
	第3回	領域「環境」の理解 ねらいと内容					
	第4回	領域「環境」の理解 環境を通して行う保育					
	第5回	環境の構成 教師の願いを込める					
	第6回	環境の構成 身近な環境の構成					
	第7回	環境の構成 季節や地域の行事					
	第8回	環境の構成 好奇心・探究心を育てる環境					
	第9回	園での実際の環境構成(映像学習)①					
	第10回	園での実際の環境構成(映像学習)②					
	第11回	園での実際の環境構成(映像学習)③					
	第12回	保育者の存在 人的環境の重要性					
	第13回	標識・文字、数量・図形との出会い					
	第14回	ねらいを達成するための環境構成の工夫(校外学習計画)					
	第15回	校外学習					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
		50%		25%	10%	15%	
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	保育内容「健康」	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	人間が生きていくためのベースである健康な生活の基盤をどう育てるのかについて理解する													
授業概要	子どもたちが健康で安全な生活を送るために幼稚園・保育所等の幼児教育施設が果たす役割は大きい。子どもたちの心身の発育について理解し、子どもの健康に必要な体験とは何かを学び、保育者の果たす役割について考える。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	子どもとは・健康とは												
	第2回	領域「健康」の意味												
	第3回	子どもの身体の発育・発達①形態的発達												
	第4回	子どもの身体の発育・発達②生理機能の発達												
	第5回	子どもの身体の発育・発達③生理機能の発達												
	第6回	子どもの身体の発育・発達④運動機能の発達												
	第7回	乳幼児期の安全教育とけがの防止①												
	第8回	乳幼児期の安全教育とけがの防止②												
	第9回	乳幼児期の生活習慣の形成①食												
	第10回	乳幼児期の生活習慣の形成②睡眠												
	第11回	乳幼児期の遊びと運動												
	第12回	子どものこころの健康												
	第13回	健康をめぐる現代的課題												
	第14回	健康と保育の活動内容												
	第15回	幼保小連携と保育内容「健康」のまとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期									
科目名	保育内容 人間関係 I	授業形態	講義	単位数	1 単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育園での勤務経験から、子どもの発達を促す保育内容について理論に基づき実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容を構成する人間関係の基礎理論を理解する。 ・子どもの発達とともに人間関係がどのように広がり、深まっていくのかを理解する。 ・保育の全体構造における人間関係に関して総合的に援助・指導が行えるような理論や知識を習得する。 													
授業概要	1) 乳幼児を取り巻く人的環境について理解する。 2) 現代社会の人間関係の諸問題を理解し、子どもが豊かな人と関わる力を育成するための、保育者の指導・援助などのかかわり方を理解する。													
テキスト	社会情動的スキルを育む「保育内容人間関係」、保育所保育指針													
授業計画	第1回	子どもの育つ環境を理解し、環境からさまざまな影響を受ける他者と関係												
	第2回	子どもを取り巻く環境と子どもが人と関わる力を育てるには												
	第3回	領域人間関係のねらいと内容												
	第4回	メディアが子どもの成長に与える影響												
	第5回	人間関係作りを支える保育者の役割												
	第6回	基本的信頼関係と人間関係												
	第7回	自己主張・葛藤体験・他者需要とは												
	第8回	遊びの中で育つ人と関わる力												
	第9回	スクーリングテスト												
	第10回	乳児期の人との関わり												
	第11回	幼児期と人との関わり												
	第12回	主体性、自発性、自立性、創造性など個の育ちと集団の関係性												
	第13回	幼児期と学童期の育ちの連続性と人と関わる力												
	第14回	まとめ：乳幼児期の人と関わる力を育てるとは												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価：課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期									
科目名	保育内容(言葉)	授業形態	講義	単位数	1単位									
担当教員	板垣 裕	実務経験の有無	○											
実務経験教員の経歴	幼児教育施設での勤務経験を活かし、実践的な授業を行う。													
授業のねらい (到達目標)	領域『言葉』の内容、その他の領域との相互性を学び、言葉の発達の大切さを理解することができる。													
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどものへの先達となる保育者の言葉のあり方、姿勢などについて学習を深め、発達段階に合わせた関わりと言葉がけの大切さを理解すると共に、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても学ぶ。													
テキスト	新保育ライブラリ 保育の内容・方法を知る 言葉													
授業計画	第1回	言葉とは何か？ 私たちが言葉を使って行っていること												
	第2回	母語・日本語の特徴												
	第3回	言葉の形態(聞く話す読む書く)												
	第4回	言葉の役割①												
	第5回	言葉の役割②												
	第6回	言葉の発達(誕生期～乳児期)①												
	第7回	言葉の発達(誕生期～乳児期)②												
	第8回	言葉の発達(幼児期)												
	第9回	保育者の関わり(誕生期～乳児期)												
	第10回	保育者の関わり(幼児期)												
	第11回	豊かに言葉を育む活動①【語用論】												
	第12回	豊かに言葉を育む活動②児童文化財												
	第13回	言葉の問題① 人的環境として												
	第14回	言葉の問題② 障害												
	第15回	視聴覚教材【ピンク帽子のドレミファソ】												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	保育の表現技術(合奏)	授業形態	演習	単位数	1単位	
担当教員	小見 英晴	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	幼稚園教諭7年 リトミック指導16年					
授業のねらい (到達目標)	こどもの表現活動の立場から音楽をとらえる。そのために、1つ1つの楽器を使った表現から始まり、それらを重ね合わせる表現、つまり合奏について様々な角度からアプローチし、考察する。ダルクローズ、コダーイ、オルフの音楽教育を理解する。こどもの表現活動について理解する。					
授業概要	こどもの表現活動の立場から音楽をとらえるために、ダルクローズ、コダーイ、オルフの音楽教育について学び、こどもの表現能力を引き出す合奏の指導法について考えるとともに、こどもの表現欲求に即した編曲法・指揮法について解説しながら、演習を交える。こどもが表現しやすい環境づくりについて考え、楽器を使った表現について習熟する。					
テキスト	特にテキストは定めず、必要に応じて楽譜等の資料を配布する。					
授業計画	第1回	こどもと音楽表現				
	第2回	こどもの発達と「表現(音楽)」について考え、理解する。				
	第3回	ダルクローズの音楽教育				
	第4回	身体を使った表現とリズムについて学び、実践する。				
	第5回	コダーイの音楽教育				
	第6回	わらべ歌やリズム唱による音楽表現の効果について学ぶ。				
	第7回	オルフの音楽教育				
	第8回	オルフ楽器について学び、合奏を実践する。				
	第9回	編曲法				
	第10回	こどもの「表現(音楽)」を念頭に置いた編曲法を修得する。				
	第11回	指揮法				
	第12回	こどもの「表現(音楽)」をサポートできる指揮について考え、実践する。				
	第13回	合奏の実践				
	第14回	様々な表現法を試み、音色を探求しながら合奏する。				
	第15回	演奏会形式で合奏実践の発表を行い、楽器を通じたこどもの「表現(音楽)」について、また、こどもと音楽との関わりについてまとめる。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	精神保健	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴	なし													
授業のねらい (到達目標)	精神保健活動について説明できる。各発達段階における精神的健康を保持・向上させるための環境のあり方について述べる事ができる。保護者の精神保健を理解し、支援について考えることができる。													
授業概要	人間が健康を保つためには、人間相互がよりよい環境となり、相互の精神保健を常に心がける必要があり、それにより人間は健全な発達をとげることができる。特に身体発達過程にある子どもの環境となる保育者や教育者には精神保健の知識を身につける必要がある。本授業ではそれらの知識を身につけ、実践できる資質を養うことを目指す。													
テキスト	精神保健(姫路大学)													
授業計画	第1回	精神保健の意義、精神保健の対象、精神的健康												
	第2回	精神保健の歴史												
	第3回	子どもの身体発育と精神保健												
	第4回	胎児期・乳幼児期の精神保健												
	第5回	幼児期・児童期の精神保健												
	第6回	思春期・青年期の精神保健												
	第7回	成人期以降の精神保健①												
	第8回	成人期以降の精神保健②												
	第9回	生活環境の精神保健												
	第10回	障害のある子どもの精神保健												
	第11回	大人の精神保健①												
	第12回	大人の精神保健②												
	第13回	保護者の精神保健と子育て支援												
	第14回	保育者・教育者の精神保健												
	第15回	まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こども家庭福祉	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	渡邊 みゆき	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	子どもへの援助や保護者支援などの現場経験から、保育者に求められる子ども家庭福祉の法制度などの知識について教授する。						
授業のねらい (到達目標)	現代社会におけるこども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解するとともに、制度や関係機関の実施体制について学びを深めていく。あわせて、子どもの人権に目を向けながらこども家庭福祉の現状と課題についての考察を深めることで、今後の展望について見極める機会とす						
授業概要	望ましい保育者となるために、子ども家庭福祉の領域に関する基本的な知識・技能・人間性として身につけなければならないこと等について学ぶ。						
テキスト	「こども家庭福祉」 姫路大学						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	こども家庭福祉の理念と概念					
	第3回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応①					
	第4回	貧困家庭、ひとり親家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応②					
	第5回	障害のある子どもへの対応①					
	第6回	障害のある子どもへの対応②					
	第7回	多様な保育ニーズへの対応①					
	第8回	多様な保育ニーズへの対応②					
	第9回	制度と法体系、実施体系①					
	第10回	制度と法体系、実施体系②					
	第11回	児童虐待、DV①					
	第12回	児童虐待、DV②					
	第13回	少年非行等への対応					
	第14回	母子保健と子どもの健全育成					
	第15回	こども家庭福祉の動向と展望					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	子ども家庭支援論	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	障害児・者の入所及び通所施設、障害者グループホーム、地域生活支援センター、放課後保護サービス事業等の知的障害児・者支援で、「子ども家庭支援」に携わり、の支援を必要とする当事者と共に、その家族に対するサポートの重要性を実感してきた。その体験を基に、「子ども家庭支援」の支援の意義及び実際の支援における視点について、保育実習指導と関連付けながら学び、実践に役立つ授業とする。						
授業のねらい (到達目標)	1、子育て家庭を取り巻く社会的状況を理解する。2、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の現状と課題を理解する。3、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開を理解する4、特別なニーズを持つ子育て家庭への支援としての関係機関の連携を理解する。						
授業概要	多様な家族や家庭に関わる際に必要な専門職としての態度を学ぶために、事例研究を多くとり入れた授業を行う。保育理念の子どもの最善利益の保障は、子どもやその家族との対人関係における円滑なコミュニケーションの確立が大前提であること、そのための自己覚知と他者理解の重要性を理解する。						
テキスト	「子ども家庭支援論」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	家族・家庭・世帯					
	第2回	家族と家庭の形態と機能					
	第3回	ライフステージ					
	第4回	社会環境の変化と現代の家庭					
	第5回	現代の家庭と子育てをめぐる問題					
	第6回	要保護家庭の問題					
	第7回	子育て家庭を支援する法・制度					
	第8回	子育て家庭を支援する社会資源					
	第9回	新たな子育て支援制度					
	第10回	子育て家庭支援の体系					
	第11回	保育者による家庭支援の原理					
	第12回	保育所における子育て家庭支援					
	第13回	地域における子育て家庭支援					
	第14回	子どもの家庭福祉の諸相					
	第15回	要保護児童とその家族に対する支援					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	保育者論	授業形態	講義	単位数	1単位									
担当教員	原田 明子	実務経験の有無		○										
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。													
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の仕事の専門性、保育者に必要な資質・責任について理解する。 ・保育者の倫理、保護者や地域の子育て支援、研修のあり方について学ぶ。 													
授業概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保育者の役割をしり、専門的に子どもと関わるとはどのようなことか考察する。 2) 保育者の資質と責任について理解し、保育の質の向上を図る必要性を知る。 													
テキスト	保育者論・保育所保育指針・幼稚園教育要領													
授業計画	第1回	保育の基礎(保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかまとめ、保育者の責任と倫理を理解する)子どもに寄り添う魅力的な保育者とは												
	第2回	保育者の役割を考える(1)保育士・幼稚園教諭・保育教諭の仕事												
	第3回	専門家として子どもと関わる(1)保育者に求められる資質とは												
	第4回	専門家として子どもと関わる(2)専門的に子どもを育てるとは												
	第5回	専門家として子どもと関わる(3)保護者支援のありかた												
	第6回	専門家として子どもと関わる(4)保育者の専門性まとめ												
	第7回	保育者の資質向上に向けての取り組みについて												
	第8回	科目終了テスト												
	第9回	現在の保育にまつわる問題(1)少子化、待機児童と保育者の役割												
	第10回	現在の保育にまつわる問題(1)児童虐待、配慮を必要とする子ども、貧困と保育者の役割												
	第11回	保育のプロセスと質の向上 保育の計画・記録と評価												
	第12回	行事の意義と役割												
	第13回	保護者や家庭との連携												
	第14回	関係機関や地域との連携												
	第15回	期末テスト												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <td>期末</td> <td>中間</td> <td>平常</td> <td>出欠</td> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	こども家庭支援の心理学	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	阿久津 洋巳	実務経験の有無	×			
実務経験教員の経歴	なし					
授業のねらい (到達目標)	生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。					
授業概要	子ども家庭を支援する上で重要な知識、特に、子どもの発達や家族の意義・機能、子育て家庭をめぐる現在の社会状況と課題について概説する。					
テキスト	こども家庭支援の心理学(姫路大学)					
授業計画	第1回	乳幼児期から学童期前期にかけての発達				
	第2回	学童期後期から青年期にかけての発達				
	第3回	成人期・老年期における発達				
	第4回	家族・家庭の意義と機能				
	第5回	親子関係・家族関係の理解				
	第6回	子育ての経験と親としての育ち				
	第7回	子育てを取り巻く社会的状況				
	第8回	ライフコースと仕事・子育て				
	第9回	多様な家庭とその理解				
	第10回	特別な配慮を要する家庭				
	第11回	子どもの生活・生育環境とその影響①				
	第12回	子どもの生活・生育環境とその影響②				
	第13回	子どもの心の健康にかかわる問題①				
	第14回	子どもの心の健康にかかわる問題②				
	第15回	まとめ				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期									
科目名	こどもの保健	授業形態	講義	単位数	2単位									
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無		×										
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	①子どもの発育について理解する ②子どもの疾病とその予防について理解する													
授業概要	保育者として子どもの健康を守り、子どものQOLの向上を目指す活動を行うための基本的なことを学ぶ。また、子どもに多い病気などの乳幼児期の健康を守るために必要な知識を身につける。													
テキスト	こどもの保健													
授業計画	第1回	子どもの保健の意義・健康の概念と健康指標												
	第2回	子どもの身体発育												
	第3回	子どもの生理機能の発達												
	第4回	子どもの運動機能の発達												
	第5回	感染症①感染症とは												
	第6回	感染症②感染症対策												
	第7回	感染症③保育園・幼稚園で問題となる感染症												
	第8回	感染症④保育園・幼稚園で問題となる感染症												
	第9回	予防接種												
	第10回	子どものかかりやすい病気①												
	第11回	子どものかかりやすい病気②												
	第12回	先天性疾患												
	第13回	歯と口の健康												
	第14回	健康に関する現状と課題												
	第15回	こどもの保健まとめ												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期		
科目名	こどもの食と栄養	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	萱場 佳代	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	企業での調乳・離乳食指導、特定保健指導、母親教室、料理教室講師 新潟市 母子保健事業、特定保健指導、学校等での出張授業講師 他						
授業のねらい (到達目標)	子どもの身体の特徴を理解し、小児期に必要な栄養・食生活の重要性と、それぞれの時期に応じた食事の知識を習得し、食育につなげていけるものとする。						
授業概要	基本的な栄養・食生活の知識を学ぶ。 離乳食から幼児期への子どもの発育発達と、それぞれの時期に応じた栄養補給、食事の知識を学ぶ。 食育の重要性を学び、子どもたちへの伝えかたを考える。 実際に調整粉乳、離乳食、幼児食の調理を行い、形態や味を確認する。 乳幼児期における食物アレルギーについて学ぶ。						
テキスト	「新版 子どもの食生活－栄養・職員・保育－」						
授業計画	第1回	栄養に関する基礎知識(五大栄養素の体内での働き)					
	第2回	ビタミン・ミネラルの種類・働き・食品					
	第3回	母乳栄養(初乳・長所・短所・母乳不足)					
	第4回	人工栄養(調整粉乳・フォローアップミルク・特殊ミルク)					
	第5回	離乳の定義、離乳食の進め方と注意点					
	第6回	幼児期の栄養・食生活					
	第7回	間食の必要性と与え方					
	第8回	幼児期の栄養・食生活上の問題と対応					
	第9回	乳幼児期の食物アレルギー					
	第10回	食育の必要性(ねらいと内容)					
	第11回	食育の実践					
	第12回	実習(調乳・離乳食の調理)					
	第13回	実習(幼児食の調理)					
	第14回	実習(間食の調理)					
	第15回	まとめ 期末試験					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育総合演習	授業形態	演習	単位数	1単位
担当教員	原田 明子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	私立幼稚園・保育所での勤務経験から、現場で行われている保育と理論が一致する実践的指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の専門知識の振り返りにより、保育の専門的基礎力の定着を図る。 ・専門的知識技能の実践応用、課題解決能力を高める。 				
授業概要	1) 現在の保育実践上の課題、子ども子育てに関する環境上の諸問題を自ら発見し、その改善策を考える。 2) 現在の保育問題を調べグループ討議、研究発表等を行う。				
テキスト	保育所保育指針・幼稚園教育要領				
授業計画	第1回	保育の基礎(保育者に必要な専門的スキルとはどのようなことかまとめ、保育者の責任と倫理を理解する)			
	第2回	子どもの最善の利益とは(その意味を考え、保育者としての使命はどのようなことか、実現における問題点は何かを考える。)			
	第3回	社会の現状と子育ての問題①(日本の子育て環境、保育制度の問題点を雑誌、新聞その他から最新資料を集め整理する)			
	第4回	社会の現状と子育ての問題②(グループごとにテーマを決め、問題を多角的に捉え、意見交換する。)			
	第5回	社会の現状と子育ての問題③(グループごとに問題改善策を考える)			
	第6回	社会の現状と子育ての問題④(グループ毎に学修したことを発表する)			
	第7回	社会の現状と子育ての問題⑤(グループ毎に学修したことを発表する)			
	第8回	保育者の実践力①(生活から行事へつなげる保育とは)			
	第9回	保育者の実践力②(生活から行事へつなぐための工夫や指導方法を考える)			
	第10回	保育者の実践力③(ロールプレイング)			
	第11回	保育者の実践力④(ロールプレイング)			
	第12回	保育者の実践力⑤(保育者に必要な技術とは)			
	第13回	保育者としての課題とそのためすべきことを考える			
	第14回	スクーリングテスト			
	第15回	期末テスト			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度 上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	総合評価算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%		

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期									
科目名	こどもの健康と安全	授業形態	演習	単位数	1単位									
担当教員	高橋 百合子	実務経験の有無	×											
実務経験教員の経歴														
授業のねらい (到達目標)	①保育における衛生管理について理解する ②保育における事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について理解する ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について理解する ④健康状態の評価について理解する													
授業概要	子どもの健康状態をどう評価するのかを学び、子どもの姿を正しく捉えることや、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策を踏まえた保健計画や活動内容について知識を深める。また、子どもの体調不良等に対する適切な対応について、実践できる力を養う。													
テキスト	なし													
授業計画	第1回	保育における保健活動の計画と評価												
	第2回	健康状態の評価と健康観察・健康診断												
	第3回	身体計測と発育評価												
	第4回	保育における衛生管理												
	第5回	保育における事故防止・安全対策・災害対策												
	第6回	子どもの体調不良時の対応①発熱・咳・けいれん												
	第7回	子どもの体調不良時の対応②嘔吐・下痢・発疹												
	第8回	子どもの体調不良時の対応③腹痛・頭痛												
	第9回	応急処置①												
	第10回	応急処置②												
	第11回	応急処置③												
	第12回	アレルギー疾患①概要												
	第13回	アレルギー疾患②アトピー性皮膚炎と気管支喘息												
	第14回	アレルギー疾患③食物アレルギー												
	第15回	地域保健												
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	<table border="1"> <tr> <th>期末</th> <th>中間</th> <th>平常</th> <th>出欠</th> </tr> <tr> <td>50%</td> <td>25%</td> <td>10%</td> <td>15%</td> </tr> </table>	期末	中間	平常	出欠	50%	25%	10%	15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	
期末	中間	平常	出欠											
50%	25%	10%	15%											

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	保育実習論 I A(保育所)	授業形態	講義	単位数	2単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	障害児・者支援現場での保育士・社会福祉士・看護師養成のための現場実習、教員養成に伴う介護等体験、特別支援学校の職場実習等の受け入れ、社会福祉系専門学校・大学における教育活動等の体験、及び、社会福祉施設職員を対象としたキャリア形成訪問指導事業や地域と学校との連携による地域活性化の活動等から得た人的資源を糧とし、保育専門職に求められる視座・知識・スキルを、見学・ボランティア活動・当事者や支援者の講話等から学ぶ授業とする。						
授業のねらい (到達目標)	1、実習の意義を理解し、実習の目的について説明できる。2、保育所・施設の機能と役割が説明できる。3、保育士の役割と持つべき専門性について理解できる。4、「生活の場」での実習であることの自覚と心構えができる。						
授業概要	保育実習 I では、保育現場の理解の上に、保育士の役割について 役割についての認識を深める学習を行う。実習生として必要な心構え、事前に体得すべき知識や技術についても学び、主体的・効果的な学びとなるよう準備を進める。						
テキスト	「保育実習論」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	施設実習の意義と目的					
	第3回	保育所の機能と役割、現状と課題					
	第4回	新保育所保育指針・幼保連携方認定こども園教育・保育要領					
	第5回	接遇・マナー					
	第6回	乳幼児の年齢別発達の特徴					
	第7回	緊急時の対応・事故防止					
	第8回	実習の種類(参観・参加・責任)					
	第9回	実習日誌の書き方・指導案の立て方					
	第10回	保育実技の利用					
	第11回	児童福祉施設の種別および特徴					
	第12回	社会的養護の原理・原則および支援					
	第13回	プランバシー保護と守秘義務					
	第14回	他職種・他機関との連携					
	第15回	事後学習(実習の総括・自己評価・新たな課題や自己目標の明確化)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期	
科目名	保育実習論ⅠB(施設)	授業形態	講義	単位数	2単位	
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○		
実務経験教員の経歴	障害児・者支援現場での保育士・社会福祉士・看護師養成のための現場実習、教員養成に伴う介護等体験、特別支援学校の職場実習等の受け入れ、社会福祉系専門学校・大学における教育活動等の体験、及び、社会福祉施設職員を対象としたキャリア形成訪問指導事業や地域と学校との連携による地域活性化の活動等から得た人的資源を糧とし、保育専門職に求められる視座・知識・スキルを、見学・ボランティア活動・当事者や支援者の講話等から学ぶ授業とする。					
授業のねらい (到達目標)	1、実習の意義を理解し、実習の目的について説明できる。2、保育所・施設の機能と役割が説明できる。3、保育士の役割と持つべき専門性について理解できる。4、「生活の場」での実習であることの自覚と心構えができる。					
授業概要	保育実習Ⅰでは、保育現場の理解の上に、保育士の役割について役割についての認識を深める学習を行う。実習生として必要な心構え、事前に体得すべき知識や技術についても学び、主体的・効果的な学びとなるよう準備を進める。					
テキスト	「保育実習論」(配本テキスト)					
授業計画	第1回	オリエンテーション				
	第2回	施設実習の意義と心構え				
	第3回	福祉施設の専門職と他職種連携				
	第4回	施設保育士の役割				
	第5回	児童福祉施設の理解1(乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設)				
	第6回	児童福祉施設の理解2(障害児入所施設・児童発達支援センター・児童自立支援施設)				
	第7回	児童福祉施設の理解3(緒障害児短期治療施設・障害者自立支援施設・指定障害者福祉サービス事業所)				
	第8回	コミュニケーション技術1(記録の意義と方法)				
	第9回	コミュニケーション技術2(コミュニケーションの意義と方法)				
	第10回	コミュニケーション技術3(ストレスマネジメント)				
	第11回	コミュニケーション技術4(個別支援計画)				
	第12回	事後指導1(自己評価・今後の課題)				
	第13回	事後指導2(感想発表・自己評価に対する相互評価)				
	第14回	事後指導3(「施設実習からの学び」のグループ発表)				
	第15回	効果測定				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育実習論Ⅱ	授業形態	講義	単位数	1単位
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	障害児・者支援現場での保育士・社会福祉士・看護師養成のための現場実習、教員養成に伴う介護等体験、特別支援学校の職場実習等の受け入れ、社会福祉系専門学校・大学における教育活動等の体験、及び、社会福祉施設職員を対象としたキャリア形成訪問指導事業や地域と学校との連携による地域活性化の活動等から得た人的資源を糧とし、保育専門職に求められる視座・知識・スキルを、見学・ボランティア活動・当事者や支援者の講話等から学ぶ授業とする。				
授業のねらい (到達目標)	1、子どもや家族支援の現状について、保育実習Ⅰの経験を基に考えることができる。2、実習施設種の抱える課題そこで働く職員の職種と職務内容、子どもたちが置かれた現況について理解できる。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自己のリソースとして体得することをねらいとする。他の授業で学んだ知識や技術を復習し、次の実習に生かせるように準備を進める。また、保育の援助技術とは何かについて理解し、自己の援助技術を高められるようにする。そして、それらのねらいすべてが「子どもの最善の利益を保障するためのものであることを確認する。				
テキスト	「保育実習論」(配本テキスト)				
授業計画	第1回	オリエンテーション			
	第2回	保育実習Ⅰの振り返りと実践的自己課題の決定1			
	第3回	保育実習Ⅰの振り返りと実践的自己課題の決定2			
	第4回	保育知識の復習と実習課題1(子どもの発達・5領域でのねらい・現場の視点)			
	第5回	保育知識の復習と実習課題2(子どもの基本的な生活習慣の獲得と保育支援)			
	第6回	保育知識の復習と実習課題3(遊びの展開に必要な知識と環境設定の技術)			
	第7回	保育知識の復習と実習課題4(子ども主体の保育)			
	第8回	保育知識の復習と実習課題5(環境構成及び人間関係構築の技術)			
	第9回	責任実習の意義と内容			
	第10回	保育指導案の立案と実施のための留意点			
	第11回	模擬責任実習1			
	第12回	模擬責任実習2			
	第13回	模擬責任実習3			
	第14回	模擬責任実習4			
	第15回	効果測定			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期		
科目名	保育実習論Ⅲ	授業形態	講義	単位数	1単位		
担当教員	星 恵美子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	障害児・者支援現場での保育士・社会福祉士・看護師養成のための現場実習、教員養成に伴う介護等体験、特別支援学校の職場実習等の受け入れ、社会福祉系専門学校・大学における教育活動等の体験、及び、社会福祉施設職員を対象としたキャリア形成訪問指導事業や地域と学校との連携による地域活性化の活動等から得た人的資源を糧とし、保育専門職に求められる視座・知識・スキルを、見学・ボランティア活動・当事者や支援者の講話等から学ぶ授業とする。						
授業のねらい (到達目標)	1、施設利用者及び家族の現状について考えることができる。2、施設が抱える問題、職員の職種や職務内容や支援のために必要な知識や技術が理解できる。						
授業概要	施設種によって異なる保育者の具体的支援内容を、事前レポート・事後レポート作成から学ぶ。						
テキスト	「保育実習指導」(配本テキスト)						
授業計画	第1回	オリエンテーション					
	第2回	児童福祉施設の施設種の理解					
	第3回	児童福祉施設の現状と課題					
	第4回	社会的養護の現況					
	第5回	児童福祉施設における子ども・家族の支援の実情①乳児院・児童福祉施設					
	第6回	児童福祉施設における子ども・家族の支援の実情②障害児・者施設					
	第7回	児童福祉施設における子ども・家族の支援の実情③高齢者施設					
	第8回	社会的弱者支援の基本①ノーマライゼーション					
	第9回	社会的弱者支援の基本②人権保護とエンパワメント					
	第10回	個別支援計画作成①					
	第11回	個別支援計画作成②					
	第12回	余暇支援の実際					
	第13回	事後指導①実習の総括と自己評価					
	第14回	事後指導②自己の保育者としての今後の課題					
	第15回	効果測定					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育実習 I A (保育所)	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 保育所の役割と保育士の仕事を知る。 2) 保育所実習の1日の流れを知る。 3) 保育所実習における観察の視点と実習記録の書き方を学ぶ。 4) 子どもの発達過程と遊びを知る。 5) 保育技術を習得する。 6) 指導案の立て方を学ぶ。 				
授業概要	<p>保育実習 I (保育所)は、保育所(『認定こども園』)において、乳幼児の保育活動や保育士の活動等を観察や参加等の活動を通して、体験的に学習し、保育実践力の基礎を学ぶことを目的とする。具体的には、保育所の役割と機能、子どもの観察の視点、記録の方法及び子どもへの援助やかかわり方、保育計画や指導案作成の留意点を学ぶ。また、記録に基づく省察等を通して環境構成のあり方や、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学ぶ。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく)、及び実習日誌を総合して評価をする。上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	前期
科目名	保育実習 I B (施設)	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 施設の機能と施設保育士の仕事を知る。 2) 施設実習の1日の流れを知る。 3) 施設実習における観察の視点と実習記録の書き方を学ぶ。 4) 施設実習における利用者への支援方法と配慮事項を学ぶ。 				
授業概要	<p>保育実習 I (施設)は、保育所での実習とともに、社会的養護等社会福祉サービスを必要とする利用者とともに生活し、「児童(利用者)にとっての最善の利益」や「自立支援」について、体験的・実践的に学ぶ実習である。各々の施設が持つ機能や役割についての理解するため、施設利用者個々及び、そこで行われている支援について深く学ぶ機会としたい。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく)、及び実習日誌を総合して評価をする。上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1)子どもの発達と遊びについて学ぶ。 2)環境構成と保育者の援助について学ぶ。 3)教材研究を行う。 4)指導案を立てる。 5)責任実習を行う。 6)実習の振り返り、自己評価、省察を行う。 				
授業概要	<p>保育実習Ⅲは、保育士資格取得に伴う、選択実習である。この実習では、保育実習Ⅰでの学びを基に、保育所の役割や機能、保育所保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。また、子ども個々の発達を踏まえた保育実践に求められる知識・技術について深く学び、体得することを目指す。さらに、今日の子どもを取り巻く社会状況の中で、保育所が専門機関として果たすべき任務について、その現状から考察する。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく)、及び実習日誌を総合して評価をする。上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	後期
科目名	保育実習Ⅲ	授業形態	実習	単位数	1単位
担当教員	実習専任教員	実務経験の有無		○	
実務経験教員の経歴	保育園・幼稚園・小学校等の該当実習施設での勤務経験				
授業のねらい (到達目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1) 児童福祉施設の役割と機能について学ぶ。 2) 施設利用者の個性や特性を理解する。 3) 施設利用者個々に対する支援方法を学び、試行する。 4) 施設保育士の役割及び業務内容が理解できる。 5) 保育士としての資質や職業倫理、社会人としての基本の現在の到達点を認識する。 6) 自己の専門職としての課題を明らかにする。 				
授業概要	<p>保育実習Ⅲは、保育士資格取得に伴う、選択実習である。この実習では、保育実習Ⅰでの学びを基に、児童福祉施設等の役割や機能、施設保育士の業務内容や職業倫理についての理解を深める。また、社会的養護等社会福祉の専門的支援を必要とする人や家族の状況を理解するとともに、支援に求められる倫理・知識・技術を培うことを目的とする。</p>				
単位認定 ・ 評価方法	<p>実習園による評価(出勤状況・実習態度・職務理解・施設理解・幼児理解等の評価基準に基づく)、及び実習日誌を総合して評価をする。上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する。</p>				

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	本演習のガイダンス、ネットワーク接続、プリンタ設定 Excelの基本操作					
	第2回	表の作成					
	第3回	四則演算と関数1					
	第4回	四則演算と関数2					
	第5回	表の編集1					
	第6回	表の編集2					
	第7回	基礎まとめと復習					
	第8回	ワークシートやブックの作成と管理1					
	第9回	ワークシートやブックの作成と管理2					
	第10回	ワークシートやブックの作成と管理3					
	第11回	セルやセル範囲のデータ管理1					
	第12回	セルやセル範囲のデータ管理2					
	第13回	数式や関数を使用した演算の実行1					
	第14回	数式や関数を使用した演算の実行2					
	第15回	数式や関数を使用した演算の実行3					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	情報処理Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	長谷川 直子	実務経験の有無		○			
実務経験教員の経歴	民間企業のパソコン部門でのインストラクター業務、また、人材派遣会社の研修部門でのパソコン研修指導およびパソコンヘルプデスクを担当。初心者から上級者まで幅広い実践的な技術指導を行う。ヘルプデスクでは、派遣社員のパソコン実務に関する質疑応答を電話によりリアルタイムで行う。						
授業のねらい (到達目標)	幼稚園や保育園などの教育機関において、名簿の作成ほか表作成からデータベースの処理が必要となるデータを作成する際に、Excelの知識と技術が必要となる。本教科では、Excelを基礎から学習し活用できる能力を身につける。						
授業概要	Excel2016を用いて表の作成、データベース機能、種々の関数を用いた計算、各種グラフの作成など、基礎知識と活用方法を習得し、技術向上を図る。MOS Excel2016 検定合格を目指す。						
テキスト	Excel2016セミナーテキスト基礎・Excel2016対策テキスト&問題集						
授業計画	第1回	グラフやオブジェクトの作成1					
	第2回	グラフやオブジェクトの作成2					
	第3回	模擬1(演習)					
	第4回	模擬1(演習)					
	第5回	模擬1(テスト)					
	第6回	模擬2(演習)					
	第7回	模擬2(テスト)					
	第8回	模擬3(演習)					
	第9回	模擬3(テスト)					
	第10回	模擬4(演習)					
	第11回	模擬4(テスト)					
	第12回	模擬5(演習)					
	第13回	模擬5(テスト)					
	第14回	実力判定(演習)					
	第15回	実力判定(テスト)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	円山昭子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行						
授業のねらい (到達目標)	素材の活かし方・制作手順の要領を良くする方法など、学び合いながら習得していく 実際に子どもたちとする時の配慮点などを考えながら、製作技術やあそびの習得を目指す						
授業概要	様々な素材と技法について体験し、子どもに指導する際の配慮などを考える 年齢別の対象を配慮しながら、丁寧にグッズを作ったり演じたりして見せ合う						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	作成済のパネルシアターの発表と改善点の出し合い					
	第2回	制作の教材研究 様々な素材や制作の裏技について理解を深めるとともに、子どもたちと制作をする時の留意点などを確認する 例:同じ形を沢山作る時の工夫など					
	第3回	テキスト「すきま時間あそび107」をまるごとあそぶ					
	第4回	グループに分かれ、子どもとする時を意識しながら染め紙あそびを実践する					
	第5回	染め紙で、こいのぼりと織り姫・彦星を作る 染め紙の改善点など話し合ってみる					
	第6回	4歳児が作れるおもちゃの制作					
	第7回	4歳児の発達について学び、出来たおもちゃを見せ合ってみる 実際に子どもたちと作る際の配慮などをみんなで考えていく					
	第8回	たたみかけシアターの制作(自己紹介用も兼ねる) 1~2種					
	第9回	たたみかけシアターの発表と展示(見せ合い) 1週間実習に備え、ポケットネタ帳を充実させる					
	第10回	手袋シアター制作					
	第11回	〃					
	第12回	乳児・幼児年齢別グッズ制作 作りたいものを考えて作る (カードシアター、スケッチブック、ペープサートなど題材自由)〃					
	第13回	〃					
	第14回	完成したものを実演し合う (翌週より保育園実習)					
	第15回	科学あそび系(スライム・小麦粉粘土・他)					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する			50%	25%	10%	15%

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	教材研究Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位		
担当教員	円山昭子	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	公立保育園35年6か月の勤務経験から、現場で役立つ保育教材全般について実践的な授業を行						
授業のねらい (到達目標)	様々な保育教材を知り、理解を深める 子どもたちと楽しむために必要な技術を学び合う						
授業概要	あそび歌・素話・科学あそび・伝承遊びグッズ制作など、色々な子どもとの遊びについて学ぶ 実際に子ども達と遊ぶ為の方法や配慮について年齢別に考えたり実践して見せ合ったりする						
テキスト	「基本の遊びと広げ方」「すきま時間あそび107」&必要に応じてプリント						
授業計画	第1回	小麦粉粘土・スライム・科学あそび系を順次学ぶ 実際にやってみる中で配慮点など見つけていく					
	第2回	〃					
	第3回	手あそび歌あそびわらべうたのレパートリーを増やし、 習得したものを発表し合って更に使える数を増やしていく					
	第4回	〃					
	第5回	保育グッズを作ったり使う際の練習をし、見せ合う					
	第6回	〃					
	第7回	〃					
	第8回	素話を聞く・題材を選んで練習する・実際にやってみる					
	第9回	〃					
	第10回	クリスマス関連のあそびとグッズ制作					
	第11回	〃					
	第12回	伝承遊び(あやとり・こま・凧揚げ・お手玉・けん玉)					
	第13回	〃					
	第14回	体操やダンスの振付を見て覚え、グループで練習をしマスターする					
	第15回	子どもたちへの教え方も考え、他グループに実際に教えて一緒にやってみる					
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度		総合評価 算出基準	期末	中間	平常	出欠
				50%	25%	10%	15%
	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟子ども医療専門学校

対象学科	子ども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)
科目名	実習指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	1単位
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を行う。				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、施設について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認して自分なりに立てる。 ・実習の振り返りをして課題や反省点をみつけ次に繋げる。 ・見通しをもち場面に対応して動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 				
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園子ども園実習)・前年度配布プリント等				
授業計画	第1回	ファイルの綴じ方や表紙の書き方を確認する			
	第2回	グループ園実習の準備をする①			
	第3回	グループ園実習の準備をする②			
	第4回	実習の振り返りをする。			
	第5回	保育所実習の準備をする①			
	第6回	保育所実習の準備をする②			
	第7回	保育所実習の準備をする③			
	第8回	保育所実習の準備をする④			
	第9回	実習の振り返りをする。			
	第10回	施設実習の準備をする①			
	第11回	施設実習の準備をする②			
	第12回	施設実習の準備をする③			
	第13回	施設実習の準備をする④			
	第14回	施設実習の準備をする⑤			
	第15回	施設実習の準備をする⑥			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価: 課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)
科目名	実習指導Ⅱ	授業形態	演習	単位数	2単位1
担当教員	笠井多佳子	実務経験の有無	○		
実務経験教員の経歴	公立園での勤務経験から現場に求められる保育者像について実践的な指導を」行う				
授業のねらい (到達目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向けての基本的な心構えを理解したり、幼稚園実習について理解する。 ・日誌の書き方、指導案の立て方を確認し、多方面から「活動」を考える。 ・実習の振り返りをその都度行い、課題や反省点を明確にし次の実習に繋げる。 ・見通しをもち、臨機応変に動く力や子ども達の前で演じる(伝える)力を身につける。 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・実習に向け、マニュアルやファイル等を使い基本的な事を確認する。 ・振り返りを行い、反省 課題を見つけながら次の実習に繋がるようにする。 ・部分実習指導案、実習日誌など必要な事を個々に合わせて進める。 				
テキスト	外部実習マニュアル・パーフェクトガイド(施設実習、保育実習・幼稚園こども園実習)・前年度配布プリント等				
授業計画	第1回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第2回	保育実習Ⅰの振り返りをする			
	第3回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第4回	保育所実習のエピソードをまとめ、次の実習の課題を明確にする			
	第5回	事例検討①			
	第6回	事例検討②			
	第7回	施設実習の準備	実習記録について考える①		
	第8回	施設実習の準備	実習記録について考える②		
	第9回	施設実習の準備	実習記録について考える③		
	第10回	施設実習の準備	指導案の立て方④		
	第11回	施設実習の準備	指導案の立て方⑤		
	第12回	保育実習Ⅰ(施設実習)の振り返りをする。			
	第13回	責任実習の立て方について			
	第14回	責任実習の立て方について			
	第15回	責任実習の立て方について			
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50% 中間 25% 平常 10% 出欠 15%	上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する	

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(前期)	
科目名	音楽Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2単位	
担当教員	川内菜央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○			
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。					
授業のねらい (到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける					
授業概要	保育の表現技術(ピアノ)で習得した基礎技能をふまえ、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い等の技術を身に付けるとともに、こどもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。					
テキスト	「こどもと音楽表現」「ブルクミュラー25の練習曲」「保育の四季 幼児の歌110曲集」					
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第8回	中間試験				
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・ブルクミュラー・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。				
単位認定 ・ 評価方法	期末試験の実施 授業時数の2/3以上の出席 平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度	総合評価 算出基準	期末 50%	中間 25%	平常 10%	出欠 15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する						

授業概要(シラバス)

新潟こども医療専門学校

対象学科	こども未来学科	実施学年	2学年	開講期	通年(後期)		
科目名	音楽Ⅲ	授業形態	演習	単位数	2単位		
担当教員	石川美穂・川内菜央・寺内めぐみ	実務経験の有無	○				
実務経験教員の経歴	各講師それぞれが、音楽教室・自宅でのピアノ指導歴数十年、またソロの演奏活動、声楽(他楽器)の伴奏等の経験より、初心者からレベルの高い学生まで幅広い指導を行うことができ、「音楽による表現」へのアプローチ、コードによる伴奏付け等のアドバイスをを行っている。						
授業のねらい(到達目標)	目を同運つ、途中で止まる、弾き直すなどのない演奏をする。 楽曲のテンポを正しくとり、音楽の流れを中断しないようにする。 抑揚のある表情豊かな演奏を心がけたとえ練習曲であっても美しい音楽作品になるように心がける						
授業概要	保育の表現技術(ピアノ)で習得した基礎技能をふまえ、保育・教育者としての素養と実践に必要な音楽の知識・技能等を習得する。歌唱、ピアノ伴奏、弾き歌い等の技術を身に付けるとともに、こどもを対象とした音楽活動とその指導について実践的に学ぶ。						
テキスト	「こどもと音楽表現」「バイエルピアノ教則本」「保育の四季 幼児の歌110曲集」						
授業計画	第1回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第2回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第3回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第4回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第5回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第6回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第7回	中間試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第8回	中間試験					
	第9回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第10回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第11回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第12回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第13回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第14回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
	第15回	期末試験課題(ソルフェージュ・バイエル・弾き歌い)を中心に各個人の進度に合わせた曲を練習する。					
単位認定・評価方法	期末試験の実施	授業時数の2/3以上の出席	総合評価算出基準	期末	中間	平常	出欠
	平常評価:課題提出物の状況・確認テスト・授業態度			50%	25%	10%	15%
上記の評価の結果、総合評価算出基準によりC認定以上の者を単位認定する							